

2017 年度第 11 回理事会(定例)開催



2017/18V・プレミアリーグファイナル(@東京体育館)にて男子はパナソニックパンサーズが 4 年ぶり 5 回目、女子は久光製薬スプリングスが 2 年ぶり 6 回目の優勝を飾りました。

2018 年 3 月 13 日(火)に開催された 2017 年度第 11 回理事会(定例)の概要をお知らせします。

●次期評議員候補者推薦決議について

次期評議員候補者推薦決議について、下記の通り説明がありました。

2018 年 6 月 13 日の定時評議員会の終結の時をもって、現評議員 15 名の任期が満了となる。先般、2018 年 2 月 15 日の臨時評議員会において評議員定数を 15 名以上 20 名以内から 20 名以上 25 名以内とする定款の改定(2018 年 6 月 13 日施行)が承認された。この定款改定により、理事会及び評議員会から推薦された評議員候補者については、最終的には 4 月に開催される評議員選定委員会において審議され、20 名以上 25 名以下の評議員が選定(決定)されることになる。

本日は理事及び加盟団体の皆様から推薦された評議員候補者の中から、理事会として評議員選定委員会に推薦する候補者の承認決議を行う。

候補者人数は理事からの推薦が 17 名、加盟団体(全国ブロック・全国連盟)からの推薦が 14 名であり、推薦者(各理事)から推薦書に基づく候補者の紹介が行われた。

■計 31 名の評議員候補者について、理事会として評議員選定委員会に推薦する賛否を記名式による投票にて一人ひとり諮ったところ、候補者 31 名全員が承認可決されました。

※なお、評議員候補者に関する情報は、非公開とさせていただきます。新任の評議員については評議員選定委員会での決定以降の発表となりますのでご了承願います。

●第 9 期(2018 年度)事業計画について

第 9 期(2018 年度)事業計画について下記の通り説明があり、賛否を諮り承認可決されました。

第 9 期・2018 年度事業計画案の基本方針については、前回の理事会で承認いただいた 2018 年度 JVA 運営方針を軸としているが、2018 年度の厳しい経営状況を招いた大きな要因は、中・長期にわたる適切な財務計画の不在であったと認識している。昨年度制定された 2050 年構想や中期計画については内容を精査する必要がある、改訂も視野に入れて検討する。以下、2018 年度を推進するための「4 つのキーワードの展開」について説明する。

1. 攻める(収入増加)

◎2018 年度、約 6 億円の赤字の削減に向け、収入増加を JVA 挙げて取り組む

・M&M の組織力、機能強化

→人材補強(部長とスタッフ 1 名増員、広報 2 名のシフトによる販売促進強化)

→チケットングを国際、国内業務部からシフトし専任化を図る

→組織名称をマーケティング戦略事業本部に変更し体制の充実を図る

◆協賛金 1 億円

→全日本男女のメディア露出強化→新規協賛金 0.7 億円獲得

→ビーチバレーワールドツアーの新規協賛金 0.3 億円獲得

◆入場料収入 0.5 億円

2018 バレーボールネーションズリーグ、2018 女子世界選手権大会を放映するテレビ局や、開催地加盟団体との連携による拡販(経済団体や行政とも連携し企業向け販売や学生や家族の集客施策、海外チームによるバレーボール教室開催などで日本戦以外の拡販も目指す)

◆MRS 登録促進

専任部長を配置し、地域、カテゴリー別の登録目標を設定し、各種施策の成果の進捗管理を実施

2. 強化

			国際大会目標		達成のポイント
インドア	シニア	男子	ネーションズリーグ	10 位以内	計画的選手登用により、週毎に1勝以上を目標とする。
			アジア競技大会	2 位以内	全日本準代表チームで参戦。 イラン、中国、韓国に勝利。
			世界選手権大会	8 位以内	上位ランク国(11 位以上)からの勝利。
		女子	ネーションズリーグ	ファイナル出場	計画的な選手選考および新戦力を登用し、成果(5 位以内)を修める。
			アジア競技大会	優勝	中国、タイ、韓国に勝利し優勝を目指す。
			世界選手権大会	3 位以内	国内大会開催でのアドバンテージの中、上位国に優勝し(中国、米国、セルビア、ブラジル、ロシア)、表彰台を目指す。
	アンダカテゴリー	男子	U18 アジア選手権	3 位以内	イラン、中国、タイペイに勝利し、世界選手権出場権を獲得する。
			U20 アジア選手権		
			AVC カップ	優勝	学生代表で参戦し、優勝を目指す。国際試合経験の有効な場とする。
		女子	U17 アジア選手権	3 位以内	中国、タイ、韓国、タイペイに勝利し、世界選手権出場権を獲得する。
			U19 アジア選手権		
			AVC カップ	優勝	ジュニアチームを主軸に参戦し、優勝を目指す。国際試合経験の有効な場とする。
ビーチ	男子	アジア競技大会		3 位以内	ブラジル合宿、チームジャパン体制浸透
	女子			3 位以内	4 月末、選抜日本代表への集中強化

※ビーチの若年層はナショナルチームを発足し、通年での練習強化、高体連との連携でインドア有望選手のビーチ取り込みを行う。

3. 普及

	具体的な施策
競技者人口の拡大	各地の競技者人口実態調査(MRS 登録の精査) 特に、中学校のクラブ存続実態を把握し、その対策を練る。 日小連・中体連・高体連は、2017 年度登録者数の 3%アップを目指す
指導者の育成	日本体育協会の指導者資格カテゴリー変更に伴う対応。上級コーチ・コーチライセンス取得者を各 50 名とする。 外部指導者導入への対応を検討。 「初心者指導者向け」及び「上級(グローバル)指導者向け」テキストの編集計画。
体罰・暴力・ハラスメント撲滅	加盟団体との連携を更に強化して体罰・暴力・ハラスメントに厳しく対処する。各種講習会における教育の実施及び内容の充実。 2020 東京オリンピックに向けて体罰・暴力・ハラスメント撲滅キャンペーンの展開。

4. 連携

- ・ 入場料収入増大のために国際大会開催地加盟団体との連携会議等の運営
- ・ MRS 登録促進専任スタッフによる加盟団体との新たな連携
- ・ 評議員改選、定数増員(6 月)による加盟団体からの人材の登用
- ・ 評議員会、理事会の情報交換促進(懇談会等の実施)

5. その他

- ・ 2018 女子世界選手権大会、ビーチバレーワールドツアーの運営経費削減目標 0.2 億
- ・ 労働環境の整備→事務局職員の人事評価制度導入/長期契約職員の正職員化
- ・ 新入職員 3 名の早期戦力化→事務局組織の活性化

※第 9 期(2018 年度)事業計画については別添の通り。

●第 9 期(2018 年度)予算について

冒頭、2018 年度の大幅な赤字予算案となった経緯について説明が行われました。
続いて、2018 年度収支予算書(案)の説明が行われ、賛否を諮り承認可決されました。

【大幅な赤字予算案となった経緯】

1. 2018 年度予算案

収入 26 億円、支出 33 億円、5.9 億円の実質赤字(表面上の赤字は 7.2 億円—2016 年度の利益を活用した主に強化に関する特定費用準備資金の使用に伴う支出が 1.3 億円あるため)

2. 赤字の主な要因

① 2018 ビーチワールドツアー招致に伴う赤字⇒2.5 億円

② 2018 世界選手権大会招致に伴う赤字⇒6 億円

(6 億円の内訳)

FIVB からの運営助成金廃止	2.5 億円
FIVB からの宿泊費半額補助廃止	1.4 億円
横浜アリーナ使用による経費増 (東京 2020 体育館不足問題の影響)	1.0 億円 (東京 2020 体育館不足問題の影響)
その他経費の増加	1.1 億円 FIVB 大会開催基準の上昇(LED 看板、大型ビジョン、公式エントリー選手数増) 国内移動旅費の高騰

3. それぞれの会長時の取り組み

体制	ビーチ	世界バレー
羽牟・西脇 (2013.6 月～2015.5 月まで)	・2015 の横浜グランドスラム開催と 2016-18 に国際大会 4 回実施の契約締結 ・2014 より新事業部を立ち上げビーチバレーボールのてこ入れに乗り出す(経費予算 0.7 億円 ⇒ 1.7 億円へ拡大) ・2015 よりビーチバレーボール事業本部に移行—経費予算 4.5 億円に(うち 2 億円が国際大会に)	・2014-8 月に覚書締結 2010 の大会では、契約金の内 2 億円は運営助成金(FIVB の支払い肩代わり)として、JVA に支払われた。 ・2018 大会は FIVB の運営助成金廃止に伴い、「ユニフォームの胸の広告権は JVA に付与」とされたが、JVA から放送局とそれを元にした交渉がされず、次期体制への引継ぎがなされなかった。
木村・林・井原 (2015.6 月～2017.6 月まで)	・2015 横浜グランドスラム開催 2 億円の赤字 ・2015 の失敗を受けて解約交渉するが 2 億円を超える違約金のため、国際大会 1 回削減で 2018、2019 の 2 回開催に。 ・ビーチバレーボール事業本部 2016 年度経費予算を 1.3 億円に圧縮 ・自治体との交渉により 2018 ワールドツアー誘致に成功(0.8 億円助成) ・協賛金獲得、入場料有料化への施策進まず。	・宿泊費 50%負担廃止を受けて協賛金獲得に動く(寄付金 2,000 万円の獲得) ・運営助成金廃止による経費大幅増の 2018 経営予測が甘く、対策としての放送局への経費支援交渉がなされなかった。
嶋岡・八田・林 (2017.8 月～ 現在)	・2017 年末に自治体から開催中止を通告され、キャンセル阻止に動くも実らず ・代替開催地探しと新規協賛見込み企業の開拓	・開催経費支援要請を FIVB アリ・グラッサ会長に 2 回するも交渉実らず ・本件に関する経費支援交渉中

※3～4 年(中期)での適切な財務計画の不在、経営交代時のマイナス情報の伝達漏れが最大の要因

4. 今後の正味財産の推移予測

現在 ⇒ 15 億円

2017 年度末(予想)⇒ 15 億円(今年度は黒字見込み)

2018 年度末(予想)⇒ 8 億円に減少

2019 年度末(予想)⇒ 5 億円に減少

2020 年度末(予想)⇒ 9 億円に回復

(テストイベントとして OQT に替わるイベントを企画)

(うち基本財産は 2.3 億円)

5. 今年度(2018 年度)の取り組み⇒2018 事業計画「4 つのキーワード展開」参照

6. 今後の中期的な取り組み

2019 年度はワールドカップ男女、ビーチワールドツアーの新規協賛金、グッズ販売、入場料収入拡大に尽力し赤字半減(1.5 億円)を目指す。

2020 はオリンピック前のテストイベントの国際親善試合で、収入拡大(3 億円)を図り、正味財産拡大を目指す。

一方で、2021 以降の国際大会の招致、契約スキームの改善に取り組むために、FIVB やテレビ局との交渉力、商品力強化が今後の鍵

今後は、2024 までも見据えた中長期の経営計画、財務計画の策定に尽力し、公益財団法人としての責務を全うしながら、国際大会招致、国内大会の価値向上に取り組んでいく。

【収支予算書(案)の説明】

2017 年度から内閣府より認められた 3 事業区分での予算 2 期目になる。

収益事業はバレとも、物品販売、肖像使用のみとなり、その他はすべて公益事業となる。

●全体の収支

収入総額は 2,618 百万円、費用総額は 3,346 百万円となり 728 百万円の赤字予算を計上している。

今年度はグラチャン、世界クラブ選手権、AVC ビーチ国際大会があったが来年度は 4 スターのビーチバレーボール国際大会と 8 年ぶりに女子世界選手権を日本で開催する。今年度との単純な比較はできないが、収入に比べて費用が格段に増加しているのは上述のとおり。

なお公益目的事業比率は 93%になっている。この数値が 50%以上あることが公益財団として求められており、基準をクリアしている。

※第 9 期(2018 年度)の予算書は別添の通り。

●組織変更及び役員担務の変更等について

組織変更及び役員担務の変更についての説明があり、賛否を諮り承認可決されました。

組織変更について

2018 年 4 月 1 日付で、マーケティング事業の強化・拡大を目指し、M&M事業本部の機能を見直して「マーケティング戦略事業本部」と改称し、マーケティング戦略事業本部内に「マーケティング戦略推進部」と「マーケティング・コミュニケーション部」を置く。

また、業務推進室・企画部は廃止とし、その役割をマーケティング・コミュニケーション部、経理部、総務部にそれぞれ移管する。

※組織変更の詳細に関しては、別添資料の通り。

役員担務の変更等について

■担当職務の変更について(2018年4月1日付)

- ・八田茂 (現)代表理事 専務理事
(新)代表理事 専務理事 兼 事務局長 兼 東京2020大会準備室長

※なお、現業務執行理事 事務局長である林孝彦は2018年3月31日付で退任する。

- ・鳥羽賢二 (現)業務執行理事 ハイパフォーマンズ事業本部本部長 兼 女子強化委員会委員長
(新)業務執行理事 ハイパフォーマンズ事業本部本部長
- ・鍛冶良則 (現)業務執行理事 業務推進室長
(新)業務執行理事 業務推進室長 兼 総務部長

■重要な使用人の選任について(2018年4月1日付)

- ・灰西克博 (現)M&M事業本部本部長 兼 M&M推進部長
(新)マーケティング戦略事業本部本部長

●事務局規程の改定について

事務局規程の改定について下記の通り説明があり、賛否を諮り、承認可決されました。

2018年4月1日付で、マーケティング事業の強化・拡大を目指し、M&M事業本部の機能を見直して「マーケティング戦略事業本部」と改称し、マーケティング戦略事業本部内に「マーケティング戦略推進部」と「マーケティング・コミュニケーション部」を置く。

また、業務推進室・企画部は廃止とし、その役割をマーケティング・コミュニケーション部、経理部、総務部にそれぞれ移管する。この組織の改編に伴い、事務局規程の(事務局の組織)、(所管業務)の修正が必要となる。

●委員会委員等の選任について

委員会委員等の選任についての説明があり、賛否を諮り承認可決されました。

■女子強化委員会 委員長の選任について(2018年4月1日付)

氏名	役職	生年月日	現職及び役職等
寺廻 太	女子強化委員会委員長 (選任)	1958年1月22日	Vリーグ女子 PFUブルーキャッツ監督

■最高情報責任者、MRS委員会 委員長の選任について(2018年4月1日付)

氏名	役職	生年月日	現職及び役職等
八田 茂	最高情報責任者(CIO) MRS委員会 委員長 (選任)	1956年10月11日	代表理事 専務理事

■コンプライアンス委員会、公認推薦認定委員会委員長の選任について(2018 年 4 月 1 日付)

氏名	役職	生年月日	現職及び役職等
鍛冶 良則	コンプライアンス委員会 委員長代行 公認推薦認定委員会委員 長 (選任)	1955 年 8 月 12 日	業務執行理事 業務推進室長 コンプライアンス委員会委員

■JVA 東京オリンピック・パラリンピック競技大会準備委員会委員の選任について(2018 年 3 月 13 日付)

氏名	役職	生年月日	現職及び役職等
田代 英明	JVA 東京オリンピック・パ ラリンピック競技大会準備 委員会委員 (選任)(選任)	1963 年 6 月 20 日	一般財団法人神奈川県 バレーボール協会 専務理事

●功労者 I 表彰の決定について

功労者 I 表彰の候補者 3 名についての説明が行われ、3 名の候補者について一括で賛否を諮り、承認可決されました。

加盟団体宛に功労者 I 表彰(年に 1 度)候補者の推薦依頼をかけたところ、3 名の推薦があった。これを受け、3 月 6 日に表彰委員会を開催し、審議を行った結果、全員表彰基準を満たしており、功労者 I 表彰に相応しいと判断したため、本日の理事会にて承認をお願いしたい。

今回の候補者に該当する功労者 I 表彰(役員関係暦)基準:

「本会若しくは本会に加盟する全国的に組織されたバレーボール競技団体の役員又は本会の委員会委員及び協力社等の立場から、バレーボールの普及・発展に著しい功績のあった者で、原則として当該関係暦が 20 年以上ある者。」

推薦加盟団体	表彰者氏名	生年月日	所属団体役職
大阪府バレーボール協会	中川和雄	1926 年 11 月 1 日	日本クラブバレーボール連盟 会長
(一財)神奈川県バレーボール協会	白石武彦	1938 年 3 月 31 日	日本クラブバレーボール連盟 副会長
(公財)全国高等学校体育連盟 バレーボール専門部	林義治	1953 年 12 月 3 日	(公財)全国高等学校体育連盟 バレーボール専門部 顧問

●報告事項

(1)2017 年度第 4 四半期職務執行報告

法令及び理事会運営規程に基づき、2017 年度第 3 四半期の職務執行報告が、嶋岡会長、八田専務理事、及び業務執行理事、事業本部長より行われた。主な報告内容は下記の通りである。

【嶋岡会長】

- ①春高バレー開会式・閉会式挨拶
- ②V リーグ機構関連会議出席
- ③FIVB(スイス)出張
- ④JVA 感謝の夕べ開催
- ⑤ブロック理事長会議出席
- ⑥理事会・評議員会・評議員懇談会開催
- ⑦日本トップリーグ機構常務会議出席

【八田専務理事】

- ①組織委員会大会運営準備局関係者会議出席
- ②B リーグオールスターライブビューイング観戦、富士通関係者打合せ
- ③岩崎学園理事長挨拶、横浜アリーナ関係者打合せ
- ④山本アスリート委員長打合せ
- ⑤職員人事考課制度 導入
- ⑥2018 予算各事業本部検討会議
- ⑦青山学院大学女子バレーボール部インカレ優勝祝賀会出席
- ⑧全国競技委員長研修会出席

【林業務執行理事／事務局長】

- ①各種大会・会議・イベント・セミナー、表彰式参加
- ②各協力社、関係先との折衝、関係団体との連携
- ③HP(強化・普及)・ビーチ事業本部関連
- ④JVA 東京 2020 大会準備委員会、公認・推薦認定委員会、表彰委員会出席
- ⑤全国ママさんいそじ大会視察
- ⑥MM 事業本部関連(協賛会社訪問等)
- ⑦V リーグ機構理事会出席
- ⑧2050 年構想、中期計画関連(変更検討)

【鳥羽業務執行理事／HP 事業本部長】

- ①V リーグ機構視察／選手選考等
- ②男子・女子監督 JOC へ強化方針説明
- ③山口県協会、岡山市、薩摩川内市来訪対応
- ④男女強化委員会開催
- ⑤ユニバ・女子ジュニア強化合宿視察

- ⑥HP 事業本部予算計画立案、業務委託者契約面談等
- ⑦JOC 第 1 回東京 2020 強化ミーティング参加
- ⑧女子強化委員長人事検討

【桐原業務執行理事／ビーチバレーボール事業本部長】

- ①プロモーション戦略会議
- ②ビーチバレージャパン実行委員会
- ③マイナビ表敬訪問
- ④ビーチ若年層強化普及関連
- ⑤U19 日本代表強化合宿視察
- ⑥アジアツアー女子日本代表決定戦大会視察
- ⑦世界大学選手権日本代表選考会実施
- ⑧AVC ビーチバレーボール委員会(タイ)出席

【鍛冶業務執行理事／業務推進室長】

- ①JVA 運営会議開催
- ②コンプライアンス委員会開催
- ③評議員・理事会の在り方についての検討会議出席
- ④日本体育協会との会議(体罰・暴力関連)
- ⑤日本体育協会処分審査会陪席
- ⑥JVA 本部長会議開催
- ⑦JVA 東京 2020 大会準備委員会出席

【小田桐国際事業本部長】

- ①ビーチバレーボールワールドツアー2018 開催地利用交渉
- ②世界バレー2018 契約書会議出席
- ③世界バレー2018 神戸・浜松、大阪・名古屋・札幌・横浜
会場インスペクション立ち合い
- ④ネーションズリーグ 2018 放送権関連会議出席
- ⑤ネーションズリーグ 2018 豊田会場下見
- ⑥JVA 東京 2020 準備委員会会議出席
- ⑦ワールドカップ 2019 開催地調整
- ⑧世界バレー入場券会議出席

【村上国内事業本部長】

- ①春の高校バレー関係業務
- ②MRS 説明会開催(近畿ブロック)
- ③はつらつまママさんバレーボール教室打合せ
- ④黒鷲旗大会選考委員会出席
- ⑤V リーグ機構との国際・国内大会日程調整会議開催
- ⑥全国ブロック理事長会開催
- ⑦全国競技委員長研修会出席
- ⑧全国審判委員長研修会および 6 人制審判員講習会出席

【灰西マーケティング&マーチャンダイジング事業本部長】

- ①スポンサー企業への訪問
- ②公認ウェアの認定希望企業 3 社との面談
- ③排球堂との打合せ
- ④JVA 感謝の夕べの準備・開催
- ⑤JVA 東京 2020 大会レガシー推進部会議出席
- ⑥M&M 事業本部会開催
- ⑦公認推薦認定委員会開催
- ⑧電通打合せ

(2) 功労者Ⅱ表彰報告

功労者Ⅱ表彰について下記の通り報告された。

○第 8 期(2017 年度)第 4 回功労者Ⅱ表彰者(3 月 6 日開催された功労者表彰委員会にて決定)

- ・山下兆子 東京都ママさんバレーボール連盟 顧問
- ・河本信正 京都府バレーボール協会 副会長
- ・小山田正敏 岩手県バレーボール協会 副会長
- ・黒田謙二 北海道バレーボール協会 副理事長
- ・大江憲一 北海道バレーボール協会 副理事長
- ・大川良文 徳島県バレーボール協会 顧問
- ・吉村茂之 岐阜県バレーボール協会 参与

(3) その他

八田専務理事より、人脈紹介シートの提出についての協力依頼がありました。

「2018 年度の収支改善に取り組む一環として、是非理事の方々の人脈を活用し、新規のスポンサーや大会協賛社の獲得に協力願いたい。」

本件は、新生マーケティング戦略事業本部が担当するので人脈紹介シートに必要事項を記載の上 3 月 31 日までに提出願いたい。」

以 上

発 行 : 公益財団法人日本バレーボール協会
電 話 : 03-5786-2100 FAX:03-5786-2109

発行人 : 業務執行理事 事務局長 林 孝彦
E-mail : generalaffairs@jva.or.jp

公益財団法人 日本バレーボール協会
第9期・2018年度事業計画
(2018年4月1日～2019年3月31日)

日本バレーボール協会（JVA）は、わが国におけるバレーボール界を統轄し代表する団体として、グローバル化、情報化、少子高齢化、格差拡大などの急激な環境変化の中、バレーボール競技の普及、振興および発展を図り、児童・青少年から高齢者に至るまで、国民の心身の健全な発達、維持および人間性の向上に寄与し豊かな社会の形成に貢献することを目指す。

1. 基本方針

■公益財団法人としての透明性の確保

ガバナンスの確立、コンプライアンス強化をはじめとする組織の厳格な運営、適切な情報開示

■JVA運営における目的と手段の明確化

JVAが解決しなければならない課題や目標を明確にし、それを達成するための具体的な手段を確立する。

■JVAと加盟団体とのコミュニケーションの促進

加盟団体との連携強化、JVA・加盟団体が果たすべき役割の明確化、情報の共有

■「2050年構想」と「中期計画」

現下の非常に厳しい経営環境に鑑み、「2050年構想」及び「中期計画」に関しては改訂も視野に入れ、理事会、加盟団体等関係先との議論を早急に実施する。特に、3～4年を見据えた財務計画を「中期計画」に盛り込み、各年度の事業計画及び予算に連動させて進捗を管理する。

<基本方針を推進するための施策>

■「強化」

- ・2020東京オリンピックおよび2大会先を見据えた強化計画の策定と確実な実行一貫した強化育成の推進。
- ・ビーチバレーボール事業の特別強化、普及のための実行計画の策定
2020東京オリンピックまでの年次毎の実行計画を策定し確実に実行する。
(特に加盟団体との連携・協力体制を明確化する)

■「普及」

- ・競技者人口の拡大
- ・指導者の育成（指導者数の増と指導者の資質向上）
- ・体罰・暴力、ハラスメントの撲滅
- ・加盟団体との連携強化、加盟団体との役割分担の明確化、課題集約

■「連携」

- ・加盟団体とのコミュニケーションの促進とJVAの安定経営のための施策の検討
- ・評議員会と理事会のあり方の検討
- ・JVAと日本バレーボールリーグ機構は、バレーボールに関わる全ての分野において垣根を作ることなく「連携」し、「強化」と「普及」の推進に邁進する。

■「攻め」

- 「強化」「普及」「連携」の3つのキーワードに加え「攻め」への姿勢転換を図る。
- ・JVAの各種事業に関する積極的な広報・告知によるプレーヤー、観戦者、スポンサーの増加

- ・自己財源の確保ができるJVAへの体質転換による2020東京オリンピックに向けた活動エネルギーの蓄積

No/	表記	正式名
(1)	JOC	公益財団法人日本オリンピック委員会
(2)	FIVB	国際バレーボール連盟
(3)	AVC	アジアバレーボール連盟
(4)	NTC	味の素ナショナルトレーニングセンター
(5)	JADA	公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構
(6)	Vリーグ機構	一般社団法人日本バレーボールリーグ機構

2. 事業内容

(1) 競技力向上事業及び競技力向上に係る日本代表選手団国際大会派遣事業

①日本代表（全日本）チーム及び選手の育成・強化事業

全国の社会人、大学生、高校生の中から選抜された有力選手による日本代表チームを編成し、国際競技力向上を図るため以下の諸事業を行う。

1) 男子・女子シニア日本代表チーム強化合宿

2年半後の東京 2020 オリンピックでのメダル獲得を視野に入れ、男子、女子チームとも昨年新体制でスタートしたチームを更に強化する。本年度新設されたバレーボールネーションズリーグ（旧男子ワールドリーグ、女子ワールドグランプリ）において、男子は、上位チームとのジャイアントキリング（予想を覆す勝利、戦い）を演出すること、女子は、決勝リーグ進出を目論む。

また、アジア競技大会（インドネシア）においては、男女とも覇権を目指す。ただし男子は、スケジュールの関係上シニアチームに準ずるチームで参加する。

加えて、2018 世界選手権において、男子はベスト 8、女子は表彰台に上がることを目標としチーム強化合宿を行う。

■男子：国内合宿・NTC を中心に実施

海外合宿・オランダ、フランスや中国他にて実施予定

■女子：国内合宿・NTC を中心に実施

海外合宿・イタリア、アメリカ他にて実施予定

注) シニアチームとはトップレベル選手で構成された日本代表チーム

2) 男子・女子 U-23 日本代表チーム強化合宿

2019 年度に開催される第 3 回アジア U-23 選手権大会を目指し、選手強化合宿を行う。

■男子：国内合宿・NTC を中心に実施

■女子：国内合宿・NTC を中心に実施

注) U-23 チームとは、2019 年の大会出場を予定するため 1997 年 1 月 1 日以降に出生した選手で構成される日本代表チーム

3) 男子・女子ユニバーシアード日本代表チーム強化合宿

2019 年度に開催されるユニバーシアード大会（2 年に 1 回開催）でのメダル獲得を目標として選手強化合宿を行う。※女子は今年度開催のアジア東部地区大会に参加する予定

■男子：国内合宿・NTC 他で実施

■女子：国内合宿・NTC 他で実施

注) ユニバーシアードチームとは、主に大学生を中心に構成される日本代表チーム

4) 男子・女子ジュニア日本代表チーム強化合宿

男子チームは、第19回アジアジュニア選手権大会（U-20）、女子チームは、第19回アジアジュニア選手権大会（U-19）でのメダル獲得を目標としてチーム強化合宿を行う。

■男子：国内合宿・NTC 他で実施

■女子：国内合宿・NTC 他で実施

注) ジュニアチームとは、男子が1999年1月1日以降に、女子が2000年1月1日以降に出生した選手で構成される日本代表チーム

5) 男子（U-18）・女子（U-17）ユース日本代表チーム強化合宿

第12回アジアユース選手権大会でのメダル獲得を目標としチーム強化合宿を行う。

■男子：国内合宿・NTC 他で実施

■女子：国内合宿・NTC 他で実施

注) ユースチームとは、男子が2001年1月1日以降に、女子が2002年1月1日以降に出生した選手で構成される日本代表チーム

②競技活動を行う選手の競技・練習環境の整備、セカンドキャリアに関する啓蒙、情報発信

③将来性を有する選手の発掘及び育成強化事業

1) 全国小学生・中学生・高校生長身選手発掘事業

将来有望な長身選手の発掘、育成、強化を目的に、公募および推薦によるオーディションを行い、選抜した有望選手の育成強化合宿を実施する。

そして、有望選手のリストを中学生よりデータ化し、選手情報を経年的に強化委員会等で共有化する。加えて、将来のオリンピックを見据えたターゲット選手を選定し、それらの選手の一貫指導（プロジェクトコア）を実施していく。

④競技力向上にかかわるバレーボール技術の調査研究及びスポーツ医・科学の調査研究事業

1) 日本代表選手の体力測定評価、測定結果に基づくトレーニング処方立案と提言

2) 日本チームとの対戦が想定される外国チームの戦力掌握

3) トレーナーの育成、教育を行い、日本代表チームに派遣

4) 日本代表チームにドクターを派遣し、歯科・整形外科診断を中心に選手の健康維持、怪我防止及び傷害発生時の対処、薬剤を手配

5) アンチ・ドーピングの啓発を含むスポーツ・インテグリティ保護と強化をはかる

⑤日本代表選手団の国際大会派遣事業

選手、チーム強化合宿の効果を検証するとともに、実戦（試合）を経て得られる技術、戦術他総合的な競技力向上を目的として以下の各大会に日本代表選手団を派遣する。

■男子：

シニア

・FIVB バレーボールネーションズリーグ 2018（参加16カ国・総当たり戦）

5/25～27 フランス／ルーアン

6/1～3 ブラジル／リオデジャネイロ

6/8～10 日本／大阪府中央体育館

6/15～17 ドイツ／ルートヴィヒスブルク

6/22～24 中国／江門

7/4～8 フランス／リール

・第18回アジア競技大会 インドネシア／ジャカルタ（8/18～9/2）

- ・2018 男子世界選手権 イタリア・ブルガリア (9/12~30)

※オープニングマッチ イタリア／ローマ (9/9)

アンダーカテゴリー

- ・第 12 回ユース U-18 アジア選手権 イラン／タブリーズ (6/29~7/6)
- ・第 19 回ジュニア U-20 アジア選手権 バーレーン／マナーマ (7/21~28)
- ・第 6 回 AVC カップ チャイニーズタイペイ／台北 (8/8~15)
- ・日韓中ジュニア交流競技会 麗水／韓国 (8/22~29)

■女子：

シニア

- ・FIVB バレーボールネーションズリーグ 2018 (参加 16 カ国・総当り戦)
 - 5/15 ~ 17 ブラジル／バルエリ
 - 5/22 ~ 24 日本／スカイホール豊田
 - 5/29 ~ 31 ホンコンチャイナ／香港
 - 6/5 ~ 7 タイ／ナコンラチャシマ
 - 6/12 ~ 14 ポーランド／ブイドゴシュチュ
 - 6/27 ~ 30 中国／南京
- ・第 18 回アジア競技大会 インドネシア／ジャカルタ (8/18~9/2)
- ・2018 女子世界選手権 横浜・名古屋・浜松・神戸・大阪・札幌 (9/29 ~ 10/20)

アンダーカテゴリー

- ・第 12 回ユース U-17 アジア選手権 タイ／ナコンパトム (5/20 ~ 27)
- ・第 19 回ジュニア U-19 アジア選手権 ベトナム／ハノイ (6/10 ~ 17)
- ・アジア東部地区選手権大会 中国／張家港 (7/10 ~ 15)
- ・日韓中ジュニア交流競技会 韓国／麗水 (8/22 ~ 29)
- ・第 6 回 AVC カップ タイ／ナコンラチャシマ (9/17 ~ 23)

(2) 国際大会開催事業及び国際貢献・交流事業

①国際大会開催事業

1) FIVB バレーボールネーションズリーグ 2018

FIVB バレーボールネーションズリーグは、参加権を与えられたコア 12 チームにチャレンジャー4 チームが加わり、2018 年からスタートする世界転戦型のリーグ戦方式の大会。2018 年は第 1 回大会となり、2024 年までは、男女全日本チームはコア 12 チームのひとつとして参加資格が与えられている。

■FIVB バレーボールネーションズリーグ 2018 女子豊田大会

➤開催期間：5 月 22 日 (火) ~ 24 日 (木)

➤開催都市：愛知県豊田市 (スカイホール豊田)

➤参 加 国：日本、ベルギー、オランダ、アメリカ

(選手団 80 人、競技役員 10 人、計 90 人が参加予定)

➤試 合 数：延べ 6 試合《1 日 2 試合×3 日》

■FIVB バレーボールネーションズリーグ 2018 男子大阪大会

- 開催期間：6月8日（金）～10日（日）
- 開催都市：大阪市（大阪市中央体育館）
- 参加国：日本、イタリア、ブルガリア、ポーランド
（選手団80人、競技役員10人、計90人が参加予定）
- 試合数：延べ6試合《1日2試合×3日》

3) FIVB ビーチバレーボール ワールドツアー2018 4 Star

ワールドツアーはFIVB主催の毎年世界各地で開催されるビーチバレーボール界最高峰のイベント。大会は5段階のグレードに分かれ、今大会は上位から2番目の4 Star イベント。

- 開催期間：7月25日（水）～29日（日）
- 開催都市：東京
- 参加チーム数：本戦 男女各32（最大）
- 大会方式：本選＝プールプレー（6プール×4チーム） & *シングルエリミネーション（4ラウンド）
(*)シングルエリミネーション方式：1回負けたら敗退のトーナメント方式

4) 2018 女子バレーボール世界選手権

4年に一度開催されるバレーボール界で最も歴史と伝統のある世界最大規模のイベント。世界の国と地域から118チームが参加した予選ラウンドを勝ち抜いた22チーム、前回優勝のアメリカ、開催国日本を加えた24チームで競われる。

- 開催期間：9月29日（土）～10月20日（土）
- 開催都市：横浜、札幌、神戸、浜松、名古屋、大阪の6都市
- 参加国：予選ラウンド勝者22チーム、前回大会優勝国アメリカ、開催国日本
計24チーム
（選手団480人、競技役員140人、計620人が来日予定）
- 試合数：延べ103試合
第1次ラウンド1日3試合×5日×4開催地=60試合
第2次ラウンド1日4試合×4日×2開催地=32試合
第3次ラウンド1日2試合×3日=6試合
決勝ラウンド 準決勝・5-6位決定戦 3試合
1-2, 3-4位決定戦 2試合

②国際貢献・交流事業

1) FIVB 及び AVC 役員等派遣事業

世界のバレーボール界の統轄組織であるFIVB及びアジアの統轄組織であるAVCの理事職及び競技運営、審判規則、指導普及、医事ほか各種委員会の委員として本会の代表を派遣、世界のバレーボール界の発展に尽力し国際的な貢献を行う。

本年は、FIVB及びAVC理事会ほか各種会議に当該メンバーを派遣するとともに、国際レベルの指導者講習会への講師派遣、FIVBおよびAVCが主催する大会への競技役員ならびに審判員を派遣する。

2) バレーボールバンク事業

発展途上国へ、競技会で使用したボール、全国のバレーボール愛好者から寄贈されたボール、その他バレーボール用器具を寄贈して競技の普及を図り、同時に様々なバレーボール情報を提供し、発展途上国のスポーツ振興に寄与する。

併せて同事業の戦略的展開を通じ、寄贈対象となった各国のバレーボール協会（NF）との

友好を結び、連携強化を図る。

(3) 講習会開催事業、指導者、審判員等養成及び資格認定・登録事業

①競技者拡大

近年の競技人口の減少は憂慮する事態であり、特に小学生、中学生が著しく減少している。競技人口を増やすことは喫緊の課題であるため、競技者拡大に向けた事業の検証・整理を行い、現行の事業のリニューアルも含めた計画（中期・長期含む）を設定する。また、競技者の更なる拡大・競技の継続に向け、新規事業を立ち上げ競技者拡大を図ることを念頭に、今年度は以下の事業を実施する。

1) Vリーグ選手と一緒にバレーボール教室

小学生のバレーボール未経験者及び初心者を対象に、Vリーグ選手が参加してバレーボール教室を全国9会場で開催予定。

2) 全国小中学生一貫バレーボール教室

小・中学生合同のバレーボール教室を実施する。一貫指導の充実とバレーボール人口の増加を図ることを目的として、全国3会場（予定）で開催する。（開催地については調整中）

3) 幼稚園・保育園等でのソフトバレーボール（風船等）実践事業

ソフトバレーボールを通して、幼児期にバレーボールの楽しさを伝えるとともに、ボールを使ったコーディネーショントレーニングを実践し、幼少期の運動能力・発育を促す事業展開する。全国9ブロック単位で開催予定。

4) 小・中学生競技継続推進事業

小・中学生のチーム内でレギュラー以外の選手の競技継続を目的とした大会を開催し、ボール接触機会と楽しさを増加してもらうとともに、次カテゴリーでのバレーボール継続を促進する。

②指導者養成事業

各種別の指導者を対象に以下の主な養成講習会等を開催する。

1) 都道府県別バレーボール指導者研修会

各都道府県の指導者の資質向上を目的に、各地で開催する。（開催地については調整中）

2) 日本体育協会からの受託事業として、日本体育協会公認上級コーチ、コーチ、上級指導員、指導員、バレーボール専門教科認定講習会等、資格取得に向けたバレーボール専門科目の講習会を各地で開催する。

3) 本会公認講師認定講習会・公認講師研修会・公認指導者研修会

本会が開催する講習会の講師を務める指導者を対象として、認定講習会及びスキル向上のための研修会を、各年交互に、東京、または大阪で開催する。

4) 全国小学生バレーボール指導者研修会

小学生の指導者を対象として第一次・第二次・第三次講習会を各地で開催する。（開催地については調整中）

5) 全国中学生バレーボール指導者研修会

中学生の指導者を対象として全国中学生指導者研修会を各地で実施する。（開催地については調整中）

③審判員等養成・育成事業

国際大会におけるスコアラー・ラインジャッジおよび国内競技会の適正な判断と円滑な試合運営を行う審判員を養成・育成するために、以下の講習会・研修会を開催する。

講習会・研修会名等	開催期間	開催地・会場等
全国審判委員長研修会・全国6人制審判講習会	3/24～25	東京文具共和会館・慶応大学中等部
全国9人制審判講習会	4/1	JEC 日本研修センター
全国ラインジャッジクリニック	4/29～5/1	大阪市中央体育館
国際審判員（候補）審判技術強化事業	4/29～5/2	大阪市中央体育館
ブロックA級審判員講習会	4/1～8/31	全国各ブロックで開催
A級候補審判員講習会（AC キャンプ）	8/11～16の期間	近畿大学（予定）
9人制特別A級候補審判員講習会	5月	大阪
B級審判員レフェリーキャンプ	8/11～16の期間	近畿大学（予定）
Vプレミア・チャレンジリーグ合宿	5～10月	プレミアチーム・チャレンジチーム
A級審判員研修会（6人制）	11/26～12/2	東京都（大田区総合体育館他）
A級審判員研修会（9人制）	11/29～12/2	大阪市

④指導者および審判員資格認定事業

1）指導者資格認定事業

バレーボールを正しく、安全に、楽しく指導することを目標に、バレーボールの特性を活かしながら本質的な素晴らしさを伝える指導者資格として以下の認定登録を行う。

○小学生バレーボール指導者資格 ○ソフトバレーボール リーダー／マスターリーダー

○公認講師

○ビーチバレーボール指導者研修会（ビーチバレーボール研修会開催事業参照）

2）審判員資格認定事業

競技会における適正な判断と円滑な試合運営を行う審判員資格として以下の資格認定と登録を行う。

○A級審判員 ○A級候補審判員 ○B級審判員 ○C級審判員

○レフェリーインストラクター

※ビーチバレーボール審判員（ビーチバレーボール講習会開催事業参照）

（4）全国大会等国内競技会開催事業

①天皇杯・皇后杯全日本選手権大会（男女大会）

本会に登録する全てのチーム（小学生を除く）が参加可能な、天皇杯・皇后杯の名を冠するに相応しい、国内最高峰に位置づけられている大会である。本年は以下の日程で開催する。

■都道府県ラウンド：

➤開催期間：4～7月

➤開催都市：各都道府県内体育館 （男子 350、女子 360 チーム参加見込）

■ブロックラウンド：

➤開催期間：9～10月

➤開催都市：各地域ブロック内体育館 （男子 121、女子 113 チーム参加見込）

■ファイナルラウンド：

➤開催期間：12月14～16日、22～23日

➤開催都市：東京（1回戦～決勝） （48チーム参加）

②全日本小学生大会（男女・混合大会）

教育的配慮のもとにバレーボールを通じて全国児童の親睦と交流を図ること、バレーボールによる小学生の体力向上とたくましい意欲の醸成に努めること、小学生から正しいバレーボール

の基本技術とチームプレーを体得し、楽しいゲームが出来るように指導することを目的に、以下の日程で実施する。

■都道府県大会：

➤開催期間：4～7月

➤開催都市：各都道府県内体育館（5,258 チーム参加見込）

■全国大会：

➤開催期間：8月7～10日

➤開催都市：東京他（東京体育館他）（都道府県代表 136 チーム参加見込）

③全国都道府県対抗中学大会（男女大会）

将来のオリンピック選手の発掘と中学生バレーボールのレベルアップを図り、各チームとの交流を通して友情を深め、フェアプレー精神の高揚をめざし、中学生指導者の研修の場とすることを目的に、以下の日程で開催する。

➤開催期間：12月25～28日

➤開催都市：大阪（大阪市中央体育館他）（96 チーム参加）

④全日本高等学校選手権大会（男女大会）

都道府県予選を勝ち抜いた高校日本一を決める大会として以下の日程で実施する。

➤開催期間：平成31年1月5～7日、1月12～13日（1回戦～決勝）

➤開催都市：東京（東京体育館）（104 チーム参加）

⑤秩父宮賜杯・秩父宮妃賜杯全日本大学選手権大会（男女大会）

大学在校生で構成されたチームなら全ての大学が参加できる大会として、以下の日程で大学日本一を決める大会を実施する。

■秩父宮賜杯全日本大学選手権大会（男子）

➤開催期間：11月26日～12月2日

➤開催都市：東京都（選抜方式にて実施）（64 チーム参加）

■秩父宮妃賜杯全日本大学選手権大会（女子）

➤開催期間：11月26日～12月2日

➤開催都市：東京都（選抜方式にて実施）（64 チーム参加）

⑥前記各競技会に加え本会主催、開催地都道府県協会等の主管により、以下の各種別全国大会を開催する。

大会名等	開催期間	開催都市
全日本9人制実業団女子選手権大会 全日本9人制実業団男子選手権大会（同一開催）	7/20～23	仙台市・利府町
全日本9人制クラブカップ女子選手権大会	8/10～13	久留米市
全日本9人制クラブカップ男子選手権大会	7/26～29	山口市
全国社会人西ブロック男女優勝大会	10/19～21	桜井市他
全国社会人東ブロック男女優勝大会	11/9～11	富山市
全日本9人制総合女子選手権大会 全日本9人制総合男子選手権大会	11/29～12/2	大阪市
黒鷲旗全日本男女選抜優勝大会	4/30～5/5	大阪市
全日本6人制クラブカップ男子選手権大会	8/17～19	大阪市
全日本6人制クラブカップ女子選手権大会	7/26～29	宇都宮市
全国ヤングクラブ優勝大会	9/22～23	門真市・大阪市

全国ソフトバレー・シルバーフェスティバル	9/22～24	長岡市
全国ソフトバレー・レディースフェスティバル	10/26～28	草津市
全国ソフトバレー・スポレクフェスティバル	11/30～12/2	津市
全国ソフトバレー・フリーフェスティバル	31/2/16～17	町田市
全国ヴィンテージ8'S 交流大会	11/2～4	宮古市

⑦公益財団法人日本体育協会等との共催により、以下の大会を実施する。

1) 国民体育大会バレーボール競技

➤日程：10月5～8日 開催都市：福井県あわら市・坂井市

2) 日本スポーツマスターズ2017

➤日程：9月15～18日 開催都市：北海道札幌市

⑧公益財団法人全国高等学校体育連盟等との共催により、以下の大会を開催する。

1) 全国高等学校総合体育大会男子バレーボール競技

➤日程：7月26～30日 開催都市：三重県伊勢市

2) 全国高等学校総合体育大会女子バレーボール競技

➤日程：8月1～5日 開催都市：三重県津市

3) 全国高等学校定時制・通信制大会

➤日程：8月1～5日 開催都市：神奈川県平塚市

⑨公益財団法人日本中学校体育連盟等との共催により以下の大会を実施する。

全日本中学校バレーボール選手権大会（男女大会）

➤日程：8月21～24日 開催都市：島根県松江市

(5) V. LEAGUE（ブイリーグ）開催及び開催支援事業

Vリーグ機構が主催するV. LEAGUEについて、大会の一部開催権を取得し、バレーボールの普及、振興に寄与し、本会が行う公益目的事業の遂行に必要な財源確保を図ることを目的として開催する。

また、大会の競技会運営責任者と審判員の派遣によりV. LEAGUEの開催支援事業を行う。

(6) 地域グループの育成および強化事業・バレーボール教室支援事業

本会の加盟団体および全国的に組織されたバレーボール競技団体の育成と強化を目的に、運営のサポートや各種事業の支援を行う。

(7) ビーチバレーボール事業

①競技力向上事業及び競技力向上に係る日本代表選手団国際大会派遣事業

1) ビーチバレーボール男女日本代表チーム

東京2020オリンピックでのメダル獲得を最大の目標とし、有力選手の強化と国際大会への派遣を行う。

・第18回アジア競技大会（インドネシア、8/19～28）

東京2020オリンピックでのメダルを見据えて、本大会でのメダル獲得を目指す。

・FIVBワールドツアー（1～8月まで39大会開催予定、9月以降は未発表）

内、強化指定各選手2大会に派遣（その他は各選手自主参加）

・AVCアジアツアー（4月に2大会開催予定、今後追加見込み）

年間、4大会に派遣予定

2) ビーチバレーボール世代別男女日本代表チーム

将来有望選手の発掘、育成、強化を目的に、選抜した選手を十分な準備を行った上で以下の世代別国際大会に派遣する。また計画的な発掘・育成を通じた長期的な強化を目指し、U-19 ナショナルチームを常設する。

- ・AVC U-19 アジア選手権大会（タイ、3/23～25）
- ・FIVB 世界大学選手権大会（ドイツ、7/9～13）、ユースオリンピック（アルゼンチン、10/6～18）

②講習会開催事業

1) ビーチバレーボール審判講習会

ビーチバレーボールの審判員・競技者を対象に、ビーチバレーボールブロック審判講習会を開催する。更に、ビーチバレーボール選手及び指導者を対象に、ルール説明会を開催する。

（平成 30 年 1 月 12 日現在）

講習会名等	開催期間	開催都市	参加者数
全国ビーチバレーボール審判講習会	31/3/31	神奈川県	200 人
ビーチバレーボールブロック審判講習会	4～5 月	茨城県、福井県	100 人
ビーチバレーボール審判員研修会	8 月	神奈川県川崎市	30 人
A級審判員研修会（ビーチバレーボール）	8/16～19	大阪府岬町	30 人
ビーチバレーボール指導者研修会	5～10 月	会場調整中	100 人

*参加者数は見込

③全国大会等国内競技会開催事業

1) ジャパンビーチバレーボールツアー

2016 年度より、これまで JVA が主催した「シリーズ A」と日本ビーチバレーボール連盟が主催した「JBV ツアー」を統合し、「ジャパンビーチバレーボールツアー」として新たな大会を新設した。

日本におけるビーチバレーボール競技のより一層の確立と、日本から世界に羽ばたくビーチバレーボール選手の輩出を目的として、4～10 月に全国各地で大会を開催する。今年度はシーズン拡大のために例年 5 月の開幕を 4 月に前倒しし、またメディア露出の見込める新開催地を追加する。

また競技全体の商品価値を高めるべく、まずはジャパンツアーのプロモーション拡充やブランディング強化を図る。

<2018 年度開催日並びに開催都市>

（平成 30 年 1 月 12 日現在）

ジャパンビーチバレーボールツアー	開催期間	開催都市
第 1 戦 沖縄大会	4/14～15	沖縄県中頭郡西原町
第 2 戦 東京大会	5/3～05	東京都港区
第 3 戦 平塚大会	6/9～10	神奈川県平塚市
第 4 戦 南あわじ大会	6/30～7/1	兵庫県南あわじ市
第 5 戦 行橋大会	7/15～16	福岡県行橋市
第 6 戦 大洗大会	7/28～29	茨城県東茨城郡大洗町
第 7 戦 若狭おばま大会	8/4～5	福井県小浜市
第 8 戦 松山大会	9/1～2	愛媛県松山市
第 9 戦 都城大会	9/15～17	宮崎県都城市

【ジャパンビーチバレーボールツアーファイナル】

最大の目的である競技の確立と世界レベルで活躍する選手の輩出をより一層活性化し、最大限に引き出していくために、JVA 主催大会や海外で活躍するトップ選手が一堂に会して競い合い、更に日本ビーチバレーボール界のモチベーションを高揚させていく。

(平成 30 年 1 月 12 日現在)

ジャパンビーチバレーボールツアーファイナル	開催期間	開催都市
グランフロント大阪大会	9/22～23	大阪府大阪市

2) 国民体育大会ビーチバレーボール競技（正式競技）

大会名等	開催期間	開催都市
第 73 回国民体育大会	9/9～11	福井県小浜市

3) 日本選手権

各世代の日本一を決める日本選手権大会として、本年は以下の日程で実施する。

(平成 30 年 1 月 12 日現在)

大会名等	開催期間	開催都市
第 17 回全日本ビーチバレージュニア男子選手権大会	8/3～6	大阪府阪南市
第 30 回全日本ビーチバレー大学男女選手権大会	8/7～9	神奈川県川崎市
ビーチバレージャパン女子ジュニア選手権大会	8/9～12	愛媛県伊予市
第 32 回ビーチバレージャパン	8/10～12	神奈川県藤沢市
第 9 回全国中学生ビーチバレー大会	8/12～13	神奈川県藤沢市
第 29 回全日本ビーチバレー女子選手権大会	8/16～19	大阪府泉南郡岬町

(8) マーケティング事業

公益事業を安定的に推進するべく、バレーボールの社会的な価値の向上及び本会が所有する各種プロパティの価値を向上するために適切なプロモーション活動を行い、本会事業の推進に賛同いただいている協賛社とパートナーシップの強化及び新規協賛社の獲得に向け、積極的に活動を行う。

(9) バレーボール用品・用具の公認・推薦事業

競技の公正、安全ほか競技者が安心して楽しくプレーできるように、ボール、ネットほか用品・用具の公認・推薦の認定を行うとともに、競技者及び体育施設等へ、より良い用品・用具が提供されるよう、販売・製造事業者への働きかけを行っていく。また、バレーボール用品・用器具のメンテナンス徹底について、継続的に全加盟団体に働きかけ、事故予防に努めていく。

また、公認審判員やソフトバレーリーダーなどに対しては、資格保有者としての自覚を促すため、公認物品の販売を通してその着用を推奨する。

(10) ルールブック販売事業

バレーボールの愛好者、審判員、指導者をはじめとする多くの国民に対し、最新のルール情報を提供するために、公認ルールブックであるバレーボール 6 人制競技規則、同 9 人制競技規則、ソフトバレーボール競技規則、ビーチバレーボール競技規則を出版販売する。

(11) 肖像使用・バレとも・物品販売等公益事業の財源を獲得する事業

公益事業を安定的に推進するべく、以下の3事業を行う。

- ① 肖像使用許諾事業
本会登録選手の肖像権等の管理運営を行い、肖像権使用料収入を得て、一定額を肖像が使用された選手等に配分する。
- ② バレともサイト運営事業
本会のホームページに立ち上げているバレともサイトの運営を通じて、会費をいただき、チケットの先行販売、会員ならではの有用な情報を提供する。
- ③ バレーボール関連グッズの販売事業
バレーボールの魅力を高め、見る、する人口の拡大に貢献するような商品の開発、販売を行う。

(12) 東京 2020 大会準備室

バレーボール競技、ビーチバレーボール競技及びシットイングバレーボール競技の成功に向け JVA 事務局に準備室を設置し、FIVB との連携の中、競技施設、競技運営、テストイベント、事前キャンプ、スポーツマネジャー選任にかかわる諸準備を行う。スポーツ庁や東京都、そして公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会との緊密な連携と積極的な協力を促進し、「アスリートファースト」及び「レガシープラン」を念頭に準備を進める。

- ① JVA 東京オリンピック・パラリンピック競技大会準備委員会を中心に活動を展開する。
- ② 準備委員会に競技運営準備部を置き、競技運営組織の検討、スケジュール及びボランティア募集、育成等を行う。
- ③ 同じく準備委員会にレガシー推進部を置き、人材育成及びバレーボールファミリーの増加策を検討する。
- ④ パラリンピック競技（シットイングバレーボール競技）とは、一般社団法人日本パラバレーボール協会と連携を取りながら協力を行う。

(13) その他の重点項目

- ① コンプライアンス、ガバナンスの強化を推進する。
特に、体罰・暴力・ハラスメントの撲滅については、2020 年東京オリンピックの開催を見据えて、加盟団体との連携のもと取り組みを強化する。
- ② 人事制度の整備
- ③ JVA ホームページに NF ならではの競技データを盛り込み、リファレンスとしての機能を充実させる。力のある媒体にバレーボールの魅力を書いてもらう広報戦略により、バレーボールの情報を広く発信させる。
- ④ 本会の事業戦略に適合した IT 環境の整備と強化を図る。特に新 MRS（個人登録管理システム）の周知に注力し、2019 年に向けた MRS 検討委員会で公益事業の充実を目的に登録者数増の施策を検討する。
- ⑤ V リーグ機構と緊密に連携して事業を展開する。また定例会ならびに主要事業の小委員会を継続的に実施し、積極的協力を促進する。
- ⑥ 競技の高潔性を保ちアンチ・ドーピングを遵守する。また世代を問わずアスリートにアンチ・ドーピング教育を徹底する。

以上

第 9 期

平成 30 年度（2018 年度）

収 支 予 算 書

自 平成 3 0 年 4 月 1 日（2018.4. 1）

至 平成 3 1 年 3 月 3 1 日（2019.3.31）

公益財団法人 日本バレーボール協会

<目 次>

	(ページ)
1. 収支予算書.....	1～3
2. 収支予算書内訳表.....	4～6

第9期・収支予算書

2018年4月1日から2019年3月31日まで

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増減	備考
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
基本財産運用益	4,000,000	4,000,000	0	
特定資産運用益	0	750,000	▲ 750,000	
受取メンバー制度登録料	200,000,000	207,000,000	▲ 7,000,000	
事業収益	2,057,400,000	1,962,751,000	94,649,000	
協賛金収益	983,860,000	1,074,917,000	▲ 91,057,000	
入場料収益	694,600,000	335,913,000	358,687,000	
業務受託料収益	21,621,000	117,660,000	▲ 96,039,000	
興行権料収益	4,860,000	65,200,000	▲ 60,340,000	
放映権料収益	11,880,000	71,000,000	▲ 59,120,000	
広告料収益	2,240,000	2,000,000	240,000	
チーム参加料収益	91,307,000	88,974,000	2,333,000	
大会プログラム販売収益	8,863,000	8,000,000	863,000	
公認ルールブック販売収益	51,689,000	48,000,000	3,689,000	
用具等公認・検定料収益	52,990,000	55,000,000	▲ 2,010,000	
肖像素材使用料収益	6,320,000	7,000,000	▲ 680,000	
物品販売売上収益	81,788,000	39,087,000	42,701,000	
バレとも関連収益	25,000,000	25,000,000	0	
その他の事業収益	20,382,000	25,000,000	▲ 4,618,000	
受取補助金等	306,731,000	223,308,000	83,423,000	
JOC選手強化補助金	162,000,000	165,905,000	▲ 3,905,000	
スポーツ振興くじ助成金	136,731,000	47,079,000	89,652,000	
その他補助金・助成金	8,000,000	10,324,000	▲ 2,324,000	
受取交付金	40,678,000	56,150,000	▲ 15,472,000	
JOC交付金	40,200,000	50,000,000	▲ 9,800,000	
日体協交付金	328,000	6,000,000	▲ 5,672,000	
その他	150,000	150,000	0	
受取寄付金	5,000,000	3,000,000	2,000,000	
雑収益	4,550,000	4,403,000	147,000	
経常収益計	2,618,359,000	2,461,362,000	156,997,000	
(2) 経常費用				
事業費	2,410,021,000	1,946,030,000	463,991,000	
役員報酬	16,140,000	8,265,000	7,875,000	
給料手当	126,160,000	120,661,000	5,499,000	
賞与引当金繰入額	7,000,000	6,897,000	103,000	
臨時雇賃金	12,050,000	11,590,000	460,000	
退職給付費用	8,000,000	5,828,000	2,172,000	
福利厚生費	27,933,000	24,798,000	3,135,000	
旅費交通費	779,672,000	528,106,000	251,566,000	
海外派遣費	20,787,000	47,468,000	▲ 26,681,000	
減価償却費	25,000,000	14,999,000	10,001,000	
消耗什器備品費	5,714,000	4,944,000	770,000	
光熱水料費	1,100,000	1,748,000	▲ 648,000	
通信運搬費	15,803,000	12,598,000	3,205,000	
賃借料	52,493,000	39,058,000	13,435,000	
消耗品費	39,102,000	28,330,000	10,772,000	
諸謝金	237,133,000	174,061,000	63,072,000	
租税公課	1,676,000	1,480,000	196,000	
加盟団体交付金	1,800,000	2,300,000	▲ 500,000	
競技会開催交付金	45,740,000	43,340,000	2,400,000	
都道府県大会交付金	14,400,000	14,400,000	0	
講習会等交付金	0	1,800,000	▲ 1,800,000	

第9期・収支予算書

2018年4月1日から2019年3月31日まで

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増減	備考
委託費	164,495,000	122,920,000	41,575,000	
支払手数料	160,130,000	111,760,000	48,370,000	
交際費	6,569,000	5,285,000	1,284,000	
新聞図書費	205,000	205,000	0	
印刷製本費	31,078,000	26,075,000	5,003,000	
会場費	292,147,000	251,730,000	40,417,000	
会議費	9,292,000	34,065,000	▲ 24,773,000	
食糧費	20,706,000	11,675,000	9,031,000	
用具費	17,313,000	14,000,000	3,313,000	
医療費	0	0	0	
警備費	81,207,000	38,220,000	42,987,000	
表彰費	3,201,000	3,600,000	▲ 399,000	
興行権取得費	54,420,000	120,060,000	▲ 65,640,000	
販売物品製作費	47,518,000	31,000,000	16,518,000	
広告宣伝費	32,850,000	35,500,000	▲ 2,650,000	
保険料	4,763,000	5,036,000	▲ 273,000	
支払賞金	30,870,000	31,470,000	▲ 600,000	
肖像素材使用料	4,348,000	4,900,000	▲ 552,000	
雑費	11,206,000	5,858,000	5,348,000	
JOC選手強化委託事業費	389,520,000	317,003,000	72,517,000	
旅費	149,875,000	133,494,000	16,381,000	
交通費	47,378,000	40,755,000	6,623,000	
宿泊費	85,457,000	65,026,000	20,431,000	
旅行雑費	17,040,000	27,713,000	▲ 10,673,000	
渡航費	140,381,000	101,028,000	39,353,000	
国外滞在費	53,723,000	42,481,000	11,242,000	
通信運搬費	0	0	0	
借損料	2,660,000	2,400,000	260,000	
消耗品費	4,391,000	4,620,000	▲ 229,000	
印刷製本費	0	0	0	
謝金	24,102,000	26,707,000	▲ 2,605,000	
会議費	0	0	0	
雑役務費	5,854,000	0	5,854,000	
保険料	5,916,000	3,450,000	2,466,000	
雑費	2,618,000	2,823,000	▲ 205,000	
スポーツ振興センター助成対象事業費	390,007,000	124,141,000	265,866,000	
旅費	25,636,000	33,883,000	▲ 8,247,000	
交通費	13,651,000	18,985,000	▲ 5,334,000	
宿泊費	10,367,000	14,134,000	▲ 3,767,000	
旅行雑費	1,618,000	764,000	854,000	
渡航費	0	0	0	
国外滞在費	0	0	0	
通信運搬費	1,415,000	2,406,000	▲ 991,000	
借料及び損料	94,179,000	928,000	93,251,000	
消耗品費	1,890,950	360,000	1,530,950	
スポーツ用具費	520,000	4,950,000	▲ 4,430,000	
備品費	0	0	0	
印刷製本費	0	2,432,000	▲ 2,432,000	
諸謝金	112,000	120,000	▲ 8,000	
会議費	0	0	0	
雑役務費	247,563,650	77,769,000	169,794,650	
保険料	330,000	350,000	▲ 20,000	
雑費	18,360,400	943,000	17,417,400	

第9期・収支予算書

2018年4月1日から2019年3月31日まで

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増減	備考
管理費	156,580,000	168,826,000	▲ 12,246,000	
評議員報酬	3,000,000	3,000,000	0	
役員報酬	11,860,000	8,635,000	3,225,000	
給料手当	29,840,000	40,339,000	▲ 10,499,000	
賞与引当金繰入額	1,000,000	1,103,000	▲ 103,000	
退職給付費用	2,000,000	1,172,000	828,000	
福利厚生費	6,132,000	8,202,000	▲ 2,070,000	
旅費交通費	14,920,000	14,880,000	40,000	
減価償却費	6,000,000	2,001,000	3,999,000	
消耗什器備品費	704,000	666,000	38,000	
光熱水料費	234,000	252,000	▲ 18,000	
通信運搬費	1,278,000	1,260,000	18,000	
賃借料	5,760,000	5,760,000	0	
消耗品費	2,310,000	676,000	1,634,000	
諸謝金	8,290,000	11,600,000	▲ 3,310,000	
租税公課	54,324,000	52,520,000	1,804,000	
委託費	2,498,000	11,643,000	▲ 9,145,000	
支払手数料	400,000	400,000	0	
交際費	1,869,000	1,815,000	54,000	
加盟費	700,000	700,000	0	
新聞図書費	85,000	95,000	▲ 10,000	
印刷製本費	0	0	0	
会議費	2,674,000	1,500,000	1,174,000	
保険料	7,000	7,000	0	
雑費	695,000	600,000	95,000	
経常費用計	3,346,128,000	2,556,000,000	790,128,000	
評価損益等調整前当期経常増減額	▲ 727,769,000	▲ 94,638,000	▲ 633,131,000	
基本財産評価損益等			0	
特定資産評価損益等			0	
投資有価証券評価損益等			0	
評価損益等計	0	0	0	
当期経常増減額	▲ 727,769,000	▲ 94,638,000	▲ 633,131,000	
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計			0	
(2) 経常外費用				
経常外費用計			0	
当期経常外増減額	0	0	0	
税引前当期正味財産増減額	▲ 727,769,000	▲ 94,638,000	▲ 633,131,000	
法人税、住民税及び事業税	70,000	70,000	0	
当期一般正味財産増減額	▲ 727,839,000	▲ 94,708,000	▲ 633,131,000	
正味財産期首残高	1,363,255,415	1,457,963,415	▲ 94,708,000	
正味財産期末残高	635,416,415	1,363,255,415	▲ 727,839,000	
Ⅱ 指定正味財産増減の部				
受取補助金等	0	0	0	
一般正味財産への振替額	0	0	0	
当期指定正味財産増減額	0	0	0	
指定正味財産期首残高	0	0	0	
指定正味財産期末残高	0	0	0	
Ⅲ 正味財産期末残高	635,416,415	1,363,255,415	▲ 727,839,000	

第9期・収支予算書内訳表

2018年4月1日から2019年3月31日まで

(単位:円)

科 目	公益目的事業会計	収益事業等会計	法 人 計	内部取引消去	合 計
	公1	収1			
I 一般正味財産増減の部					
1. 経常増減の部					
(1) 経常収益					
基本財産運用益	2,000,000		2,000,000		4,000,000
特定資産運用益	0		0		0
受取メンバー制度登録料	110,000,000		90,000,000		200,000,000
事業収益	1,949,531,000	107,869,000	0		2,057,400,000
協賛金収益	983,860,000				983,860,000
入場料収益	694,600,000				694,600,000
業務受託料収益	21,621,000				21,621,000
興行権料収益	4,860,000				4,860,000
放映権料収益	11,880,000				11,880,000
広告料収益	2,240,000				2,240,000
チーム参加料収益	91,307,000				91,307,000
大会プログラム販売収益	8,863,000				8,863,000
公認ルールブック販売収益	51,689,000				51,689,000
用具等公認・検定料収益	52,990,000				52,990,000
肖像素材使用料収益	0	6,320,000			6,320,000
物品販売売上収益	5,239,000	76,549,000			81,788,000
バレとも関連収益	0	25,000,000			25,000,000
その他の事業収益	20,382,000				20,382,000
受取補助金等	306,731,000	0	0		306,731,000
JOC選手強化補助金	162,000,000				162,000,000
スポーツ振興くじ助成金	136,731,000				136,731,000
その他補助金・助成金	8,000,000				8,000,000
受取交付金	40,528,000	0	150,000		40,678,000
JOC交付金	40,200,000				40,200,000
日体協交付金	328,000				328,000
その他	0		150,000		150,000
受取寄付金	5,000,000				5,000,000
雑収益	2,750,000		1,800,000		4,550,000
経常収益計	2,416,540,000	107,869,000	93,950,000		2,618,359,000
(2) 経常費用					
事業費	2,329,470,000	80,551,000	0		2,410,021,000
役員報酬	15,360,000	780,000			16,140,000
給料手当	120,300,000	5,860,000			126,160,000
賞与引当金繰入額	6,700,000	300,000			7,000,000
臨時雇賃金	12,050,000	0			12,050,000
退職給付費用	7,600,000	400,000			8,000,000
福利厚生費	27,252,000	681,000			27,933,000
旅費交通費	779,512,000	160,000			779,672,000
海外派遣費	20,627,000	160,000			20,787,000
減価償却費	24,600,000	400,000			25,000,000
消耗什器備品費	5,638,000	76,000			5,714,000
光熱水料費	1,074,000	26,000			1,100,000
通信運搬費	15,661,000	142,000			15,803,000
賃借料	51,853,000	640,000			52,493,000
消耗品費	39,032,000	70,000			39,102,000
諸謝金	230,113,000	7,020,000			237,133,000
租税公課	1,622,000	54,000			1,676,000
加盟団体交付金	1,800,000	0			1,800,000
競技会開催交付金	45,740,000	0			45,740,000
都道府県大会交付金	14,400,000	0			14,400,000
講習会等交付金	0	0			0

第9期・収支予算書内訳表

2018年4月1日から2019年3月31日まで

(単位:円)

科 目	公益目的事業会計	収益事業等会計	法 人 計	内部取引消去	合 計
	公1	収1			
委託費	157,085,000	7,410,000			164,495,000
支払手数料	149,722,000	10,408,000			160,130,000
交際費	6,509,000	60,000			6,569,000
新聞図書費	200,000	5,000			205,000
印刷製本費	31,078,000	0			31,078,000
会場費	292,147,000	0			292,147,000
会議費	9,292,000	0			9,292,000
食糧費	20,706,000	0			20,706,000
用具費	17,313,000	0			17,313,000
医療費	0	0			0
警備費	81,207,000	0			81,207,000
表彰費	3,201,000	0			3,201,000
興行権取得費	54,420,000	0			54,420,000
販売物品製作費	5,988,000	41,530,000			47,518,000
広告宣伝費	32,850,000	0			32,850,000
保険料	4,742,000	21,000			4,763,000
支払賞金	30,870,000	0			30,870,000
肖像素材使用料	0	4,348,000			4,348,000
雑費	11,206,000	0			11,206,000
JOC選手強化委託事業費	389,520,000	0	0		389,520,000
旅費	149,875,000				149,875,000
交通費	47,378,000				47,378,000
宿泊費	85,457,000				85,457,000
旅行雑費	17,040,000				17,040,000
渡航費	140,381,000				140,381,000
国外滞在費	53,723,000				53,723,000
通信運搬費	0				0
借損料	2,660,000				2,660,000
消耗品費	4,391,000				4,391,000
印刷製本費	0				0
謝金	24,102,000				24,102,000
会議費	0				0
雑役務費	5,854,000				5,854,000
保険料	5,916,000				5,916,000
雑費	2,618,000				2,618,000
スポーツ振興センター助成対象事業費	390,007,000	0	0		390,007,000
旅費	25,636,000				25,636,000
交通費	13,651,000				13,651,000
宿泊費	10,367,000				10,367,000
旅行雑費	1,618,000				1,618,000
渡航費	0				0
国外滞在費	0				0
通信運搬費	1,415,000				1,415,000
借料及び損料	94,179,000				94,179,000
消耗品費	1,890,950				1,890,950
スポーツ用具費	520,000				520,000
備品費	0				0
印刷製本費	0				0
諸謝金	112,000				112,000
会議費	0				0
雑役務費	247,563,650				247,563,650
保険料	330,000				330,000
雑費	18,360,400				18,360,400

第9期・収支予算書内訳表

2018年4月1日から2019年3月31日まで

(単位:円)

科 目	公益目的事業会計	収益事業等会計	法 人 計	内部取引消去	合 計
	公1	収1			
管理費			156,580,000		156,580,000
評議員報酬			3,000,000		3,000,000
役員報酬			11,860,000		11,860,000
給料手当			29,840,000		29,840,000
賞与引当金繰入額			1,000,000		1,000,000
退職給付費用			2,000,000		2,000,000
福利厚生費			6,132,000		6,132,000
旅費交通費			14,920,000		14,920,000
減価償却費			6,000,000		6,000,000
消耗什器備品費			704,000		704,000
光熱水料費			234,000		234,000
通信運搬費			1,278,000		1,278,000
賃借料			5,760,000		5,760,000
消耗品費			2,310,000		2,310,000
諸謝金			8,290,000		8,290,000
租税公課			54,324,000		54,324,000
委託費			2,498,000		2,498,000
支払手数料			400,000		400,000
交際費			1,869,000		1,869,000
加盟費			700,000		700,000
新聞図書費			85,000		85,000
印刷製本費					0
会議費			2,674,000		2,674,000
保険料			7,000		7,000
雑費			695,000		695,000
経常費用計	3,108,997,000 (92.91%)	80,551,000 (2.41%)	156,580,000 (4.68%)		3,346,128,000 (100.00%)
評価損益等調整前当期経常増減額	▲ 692,457,000	27,318,000	▲ 62,630,000		▲ 727,769,000
基本財産評価損益等	0	0	0		0
特定資産評価損益等	0	0	0		0
投資有価証券評価損益等	0	0	0		0
評価損益等計	0	0	0		0
当期経常増減額	▲ 692,457,000	27,318,000	▲ 62,630,000		▲ 727,769,000
2. 経常外増減の部					
(1) 経常外収益					
経常外収益計	0	0	0		0
(2) 経常外費用					
経常外費用計	0	0	0		0
当期経常外増減額	0	0	0		0
他会計振替額(収益事業2分の1)	10,449,110	▲ 10,449,110	0		0
他会計振替額(収益事業2分の1超)	10,449,110	▲ 10,449,110	0		0
税引前当期一般正味財産増減額	▲ 671,558,780	6,419,780	▲ 62,630,000		▲ 727,769,000
法人税、住民税及び事業税	0	70,000	0		70,000
当期一般正味財産増減額	▲ 671,558,780	6,349,780	▲ 62,630,000		▲ 727,839,000
一般正味財産期首残高	861,487,689	752,596,976	▲ 250,829,250		1,363,255,415
一般正味財産期末残高	189,928,909	758,946,756	▲ 313,459,250		635,416,415
Ⅱ 指定正味財産増減の部					
受取補助金等	0	0	0		0
一般正味財産への振替額	0	0	0		0
当期指定正味財産増減額	0	0	0		0
指定正味財産期首残高	0	0	0		0
指定正味財産期末残高	0	0	0		0
Ⅲ 正味財産期末残高	189,928,909	758,946,756	▲ 313,459,250		635,416,415

